

情報 ひがし労

JR東労働組合 中央本部

発行人 松下 明

編集者 情宣部

冬の**第6波**で猛威を振るう

新たな変異株

ひと時より感染者数は減ってきているとはいえ、新たな脅威となる「変異株」が世界で次々と生まれています。WHO（世界保健機関）は「偏見や差別につながる」として変異株の呼び名を24文字あるギリシャ文字に切り替えています。8月31日に「注目すべき変異株」に指定された「ミュー株」です。すでに12番目（発見順とは一致しない）となります。

早晚、足りなくなるのは必定で、次は星座（アンドロメダ座～）の呼称になると言われています。

最も新しい「ミュー（μ）株」はコロンビア、エクアドルで広まり、ワクチンの有効性は7分の1まで下がるという報告があります。日本では海外から帰国した2人の患者が報告され、いずれも無症状とのことです。

ウイルスの変異は、RNA 遺伝子をコピーする際のコピーミスによるもので、高い伝播性やワクチンの無力化など何が起るか予想ができません。冬にも予想される「第6波」の主要株がラムダ株なのか、ミュー株なのか、それとも新たに生まれるであろうニュー株、クサイ株なのかは誰にも分からないのです。

一方で、開発に数年を要する薬剤開発が急ピッチで進んでいます。これまで「アビガン」など数多くの「治療薬」が登場していますが、未だ承認には至っていない現状です。新規感染者数は、減少していますが、コロナを侮ってはいけません。多くの専門家は「第6波は来るとして準備しておくべき。どういう形で第6波が起きてくるのか。第6波が起きてきた時にどれぐらいの感染者が出て重症度がどれぐらいなのか、誰も経験していないので分からないのが正直なところ。今よりも感染者・重症者が多くなると想定して、我々是对応を考えておく必要があると思う」と話しています。

変異株名	最初に見つかった国	初出	伝播性	ワクチンの効果
アルファ株(α)	イギリス	2020年9月	強い	維持
ベータ株(β)	南アフリカ	2020年5月	強い	弱める可能性
ガンマ株(γ)	ブラジル	2020年11月	かなり強い	弱める可能性
デルタ株(δ)	インド	2020年10月	かなり強い	弱める可能性
イプシロン株(ε)	米国	2020年5月	弱い	—
ゼータ株(ζ)	ブラジル/日本	2021年1月	強い	弱める可能性
イータ株(η)	複数	2020年12月	強い	弱める可能性
シータ株(θ)	フィリピン	2021年1月	弱い	—
イオタ株(ι)	米国	2020年11月	弱い	—
カッパ株(κ)	インド	2020年10月	強い	弱める可能性
ラムダ株(λ)	ペルー	2020年12月	かなり強い	弱める可能性
ミュー株(μ)	コロンビア	2021年1月	強い	弱める可能性

10月1日発行 ©日刊ゲンダイ臨時特別号より

手洗い・うがい・ マスクの着用！

新型コロナウイルスを「正しく恐れ、決して侮らない」